

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第39週 (9/26-10/2) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		39週	38週	37週	36週
小児科		18	18	16	18
眼科		5	5	4	5
インフルエンザ*		28	28	24	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			9/26-10/2	9/19-9/25	9/12-9/18	9/5-9/11	9/19-9/25
			39週	38週	37週	36週	38週
小児科	RSウイルス感染症	↓	16 0.89	19 1.06	11 0.69	17 0.94	227 1.68
	咽頭結膜熱		0 0.00	0 0.00	2 0.13	2 0.11	18 0.13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		25 1.39	20 1.11	35 2.19	38 2.11	246 1.82
	感染性胃腸炎		83 4.61	46 2.56	78 4.88	82 4.56	286 2.12
	水痘		4 0.22	5 0.28	3 0.19	11 0.61	38 0.28
	手足口病	○	51 2.83	27 1.50	19 1.19	38 2.11	254 1.88
	伝染性紅斑		2 0.11	1 0.06	1 0.06	3 0.17	10 0.07
	突発性発しん		13 0.72	6 0.33	10 0.63	22 1.22	42 0.31
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	ヘルパンギーナ		27 1.50	23 1.28	29 1.81	49 2.72	135 1.00
	流行性耳下腺炎		6 0.33	4 0.22	8 0.50	5 0.28	49 0.36
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		4 0.14	2 0.07	2 0.08	8 0.29	21 0.10
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	2 0.40	4 1.00	3 0.60	23 0.68
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	2 2.00	1 1.00	0 0.00	10 1.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	女性	80歳代	IGRA検査				
デング熱	男性	20歳代	血清非構造蛋白の検出等	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱、中枢神経症状等
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出

・第39週は、結核2件(189)、デング熱1件(5)、レジオネラ症1件(8)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(10)、急性脳炎1件(23)、梅毒1件(21)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第39週のコメント

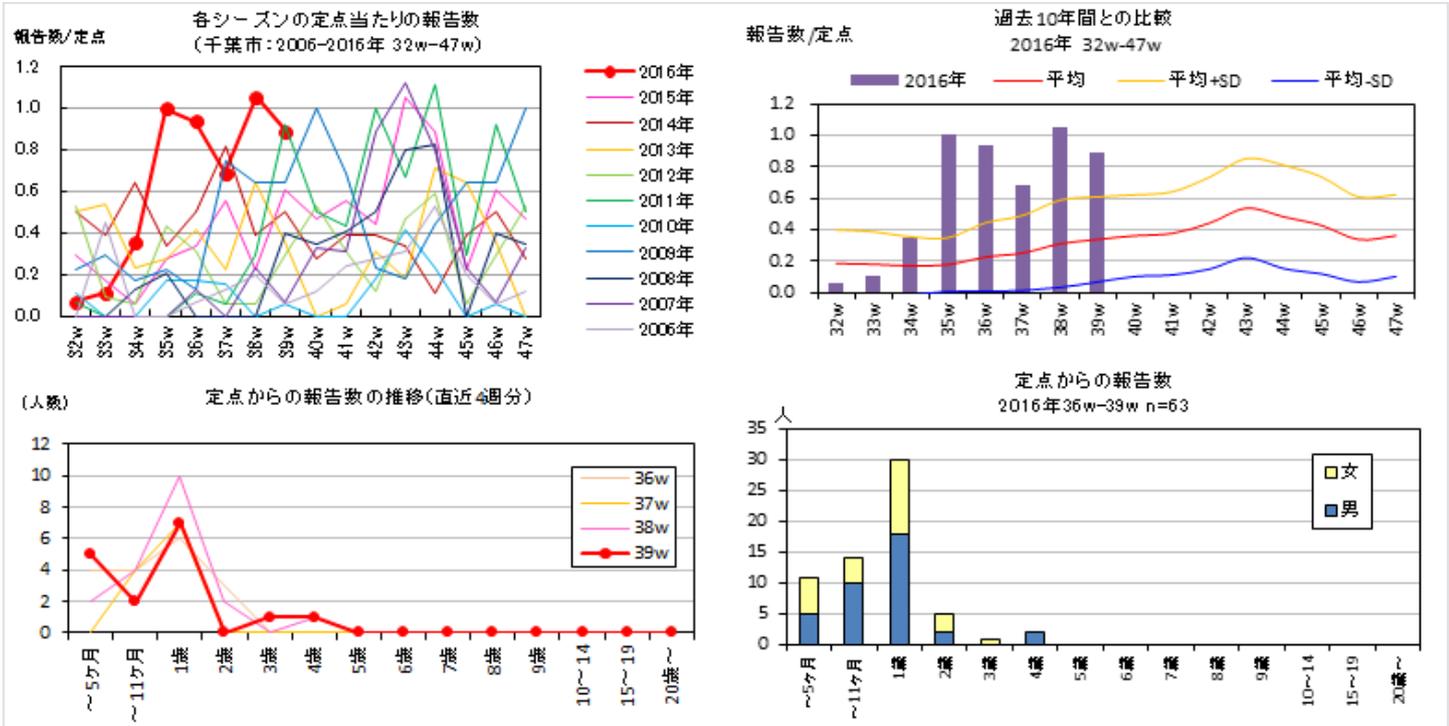
<RSウイルス感染症> 前週より減少し0.89となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<手足口病> 前週より増加し2.83となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルは第34週から連続して過去9年の同時期と比べると最多となっており、第38週も同様となっています。都道府県別では、新潟県、山形県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第39週は前週より減少し0.89となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(2.25/定点)で最多となっており、同区の0~5か月及び1歳で多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第39週までの累積報告数(n=63)によると、性別では男性が58.7%(37名)、女性が41.3%(26名)で、年齢階級別では1歳(47.6%:30名)、6~11か月(22.2%:14名)、0~5か月(17.5%:11名)の順に多くなっています。



＜手足口病＞

全国レベルの第38週は過去9年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、宮城県、千葉県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉市では第38週から連続して増加しており第39週は2.83で、過去10年の動向とは反対の動きとなっており同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(5.0/定点)で流行発生警報開始基準と並び最多となっており、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第39週までの累積報告数(n=465)によると、性別では男性が54.6%(254名)、女性が45.4%(211名)で、年齢階級別では1歳(38.1%:177名)、2歳(17.4%:81名)、6~11か月(13.5%:63名)の順に多くなっています。

